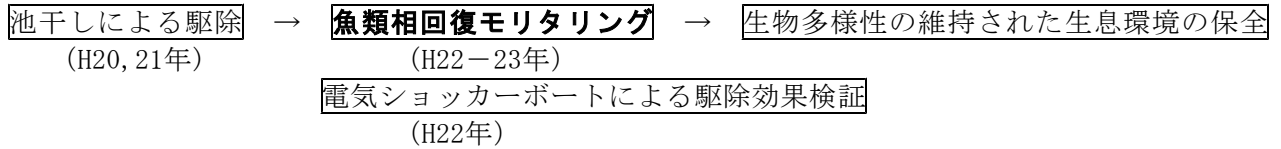


## 16. 外来種防除事業（公園自然課事業）

- 1 担 当：福本 一彦（生産技術室）・前田 浩行・内藤賢司（公園自然課）
- 2 実施期間：平成20～24年度
- 3 目 的：ため池に侵入したオオクチバス、ブルーギルによる生態系被害、水産業被害を軽減するため、池干しによる駆除効果について検証する。

### 4 事業展開フロー



## 5 取組の成果

### (1) 目的

池干しによりオオクチバスや在来種等の生息状況、駆除効果について検証する。

### (2) 方法

鳥取市玉津の新城寺池において、2012年9月30日に池干しによるオオクチバスの駆除を行った。また、2012年11月20日に醍醐池下流の農業用水路において、電気ショッカーを用いてオオクチバスの駆除を行い、個体数の計数、体長の計測を行った。



図1 調査地点

### (3) 結果

#### 【採捕種の個体数および重量】

池干しの結果、オオクチバス、フナ属、コイ、ドンコ、スジエビ、ウシガエルの6種が採捕され、個体数はオオクチバスが980個体と最も多く、湿重量はフナ属が94,260gで最も多かった。在来種と考えられるスジエビは3個体が認められる程度だった。

表1 新城寺池で採捕された種の個体数および重量の比較

種	個体数	(%)	重量 (g)	(%)
<b>&lt;魚類&gt;</b>				
オオクチバス (特定外来生物)	980	80.5	43,523	25.2
フナ属 (醍醐池から移植)	212	17.4	94,260	54.6
コイ (醍醐池から移植)	13	1.1	34,700	20.1
ドンコ (醍醐池から移植)	7	0.6	140	0.1
<b>&lt;甲殻類&gt;</b>				
スジエビ	3	0.2	1	0.001
<b>&lt;両生類&gt;</b>				
ウシガエル (幼体) (特定外来生物)	2	0.2	15	0.01
合計	1,217	100	172,639	100

【体長組成の比較】

図2～図8にオオクチバス、フナ属、コイ、ドンコの体長組成をそれぞれ示した。

オオクチバスの体長範囲は、新城寺池が63-337mmで、80-140mm、200-240mmおよび320mm前後にモードが認められた（図2）。一方、醍醐池下流農業用水路では、9月下旬が90-153mm、11月下旬が98-149mmであった（図3）。

移入種であるフナ属、コイ、ドンコの体長範囲は、フナ属が175-310mm、コイが410-670mm、ドンコが26-154mmで、フナ属およびコイは中～大型個体のみで、小型個体は認められず（図4、5）、ドンコは小型個体が認められたものの、個体数が少なかった（図6）。

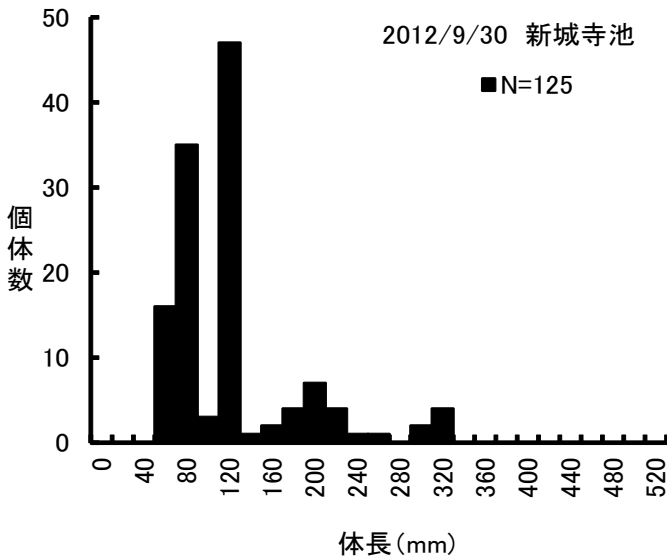


図2 新城寺池におけるオオクチバスの体長組成 (2012/9/30)

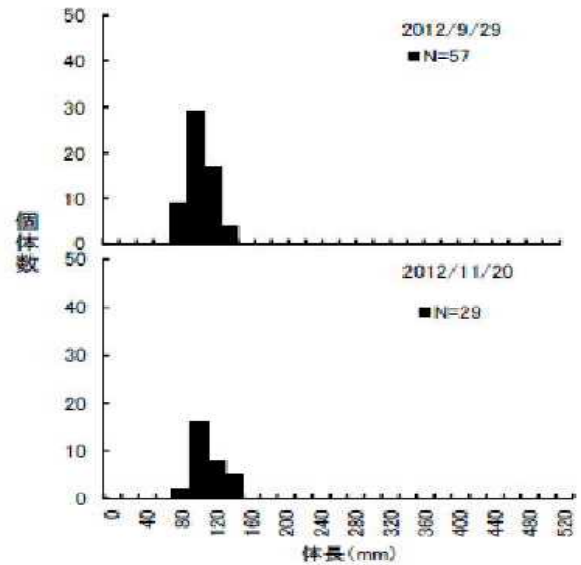


図3 醍醐池下流農業用水路におけるオオクチバスの体長組成 (2012/9/29、2012/11/20)

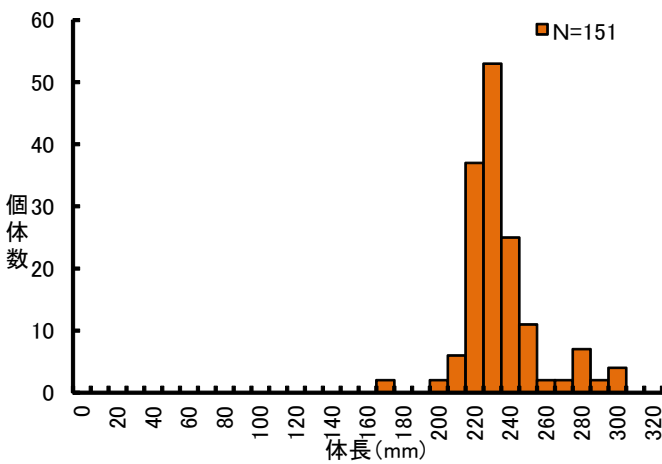


図4 新城寺池におけるフナ属の体長組成

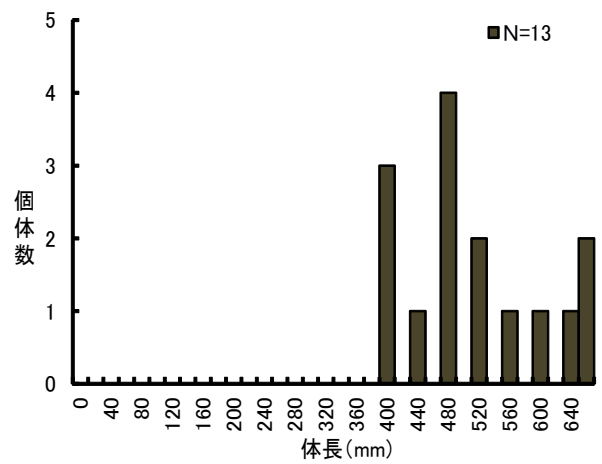


図5 新城寺池におけるコイの体長組成

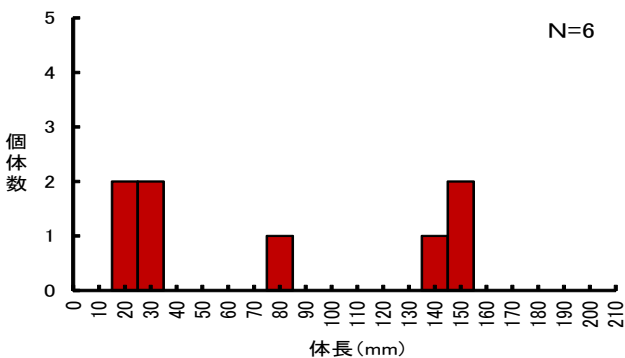


図6 新城寺池におけるドンコの体長組成

#### (4) 考察

新城寺池での池干しの結果、オオクチバスが多数採捕され、体長組成から再生産しているものと考えられた。一方、フナ属、コイは中-大型個体のみが採捕され、ドンコは小型個体が確認されたものの、個体数は僅かであった。

当池は、2008年11月時点では改修工事のため干上がっていたが、2010年10月には釣り人が0歳魚と思われるオオクチバスを複数尾つり上げているのを確認した。したがって、この間にオオクチバスが密放流されたものと推定される。

また、醍醐池下流の農業用水路では、オオクチバスの0歳魚と思われる個体が採捕されたことから、醍醐池内でオオクチバスが再生産し、0歳魚が流出した可能性が考えられる。醍醐池では2009年、2010年に池干しや電気ショックャーボートによるオオクチバス駆除が行われているが、完全に干上げができなかったため、生残個体が成長し、再生産に寄与しているものと推定される。

今回、池干しを行った鳥取市玉津地区では、2011年に最上流部の本谷池、今回、中間地点の新城寺池の干上げを実施されたが、今後は、最下流部の醍醐池の干し上げによる再度のオオクチバス駆除が必要である。

また、外来魚の密放流は、外来生物法施行後も依然として続いているものと推定され、釣り人や県民への普及啓発、監視の強化および定期的な池干し作業の継続が必要であると考えられた。

今後は、玉津地区のように、数年のサイクルで定期的に池干しを行ったり、外来魚侵入防止の普及啓発を行っていく活動をため池管理者に推進、普及していく必要がある。

#### (5) 残された課題

- ・醍醐池におけるオオクチバスの駆除、密放流防止の普及啓発、
- ・池干しによる外来魚駆除の推進、普及啓発